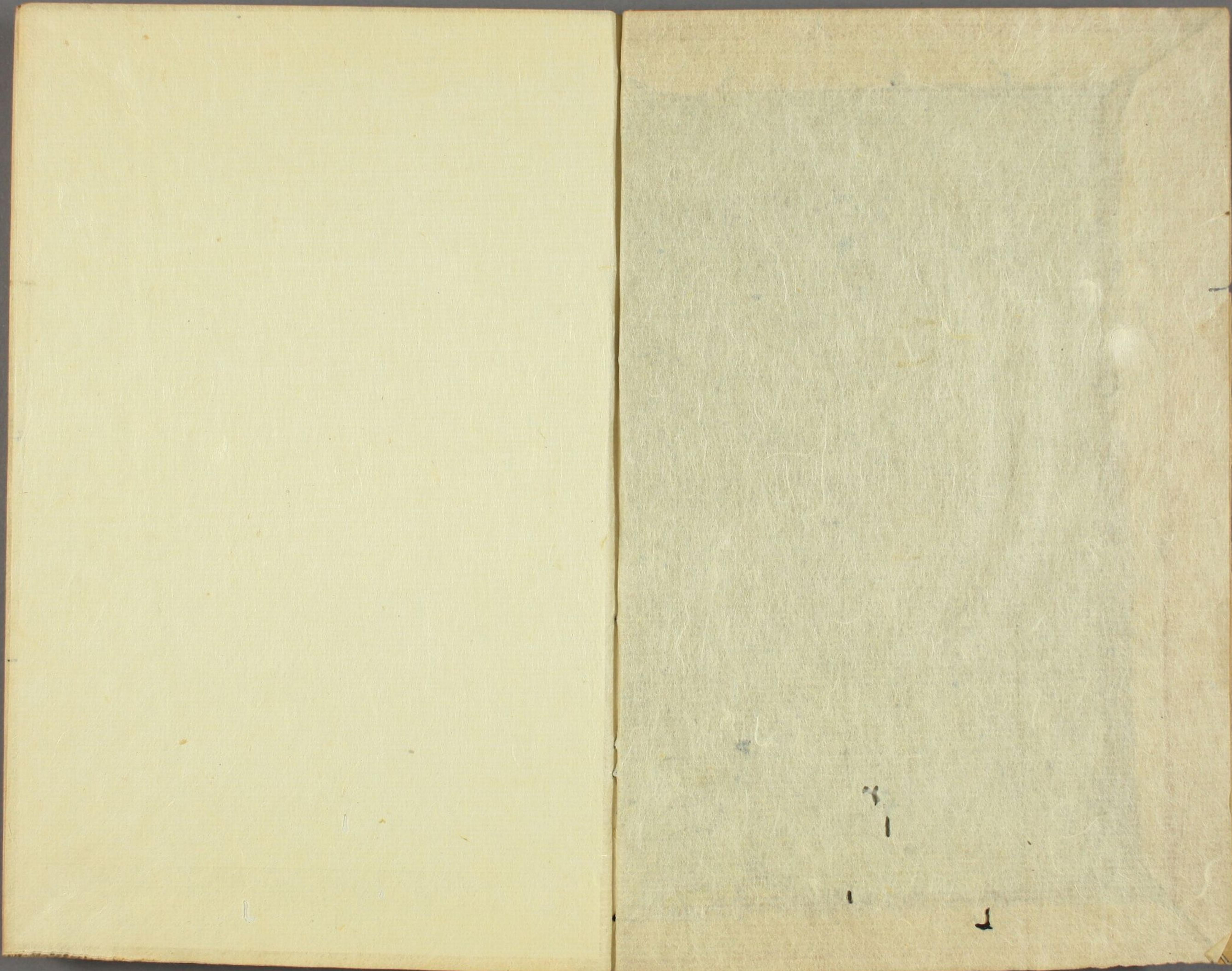


於此久保物語

二

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9



於道政物語二三と

あこがれのじけはえをまくらんと、おおむて西のありて、
ひらゆねやの戸あつまひとすと、思ふがおとたちには
まとひだり、倫もじんとくはうりをまくらふ、かみあくまう
お國ともぞうと、ゆあういと情きよといひで、これぬ
まみきとのちに、ゆむくまくと、ひらきうり、ゆくめく
せんとゆふ、おもくのじゆる、あかくまんおりく、
被くまくまくせしめゆる、かく壁のづねぬれみとある
す、かくおもかくあらが、おぢきうおとくうひもれそ、
ゆどたといひに、ゆだらん、まくらはせまくらんとくちが



あきらめて、あかてほりおとくはあう、いりてまうんと
たもふ。おみやの袋めをほよ、ぬわむん人のさよ
まに、みうるをのれぬうとう、せてわづみて、ふの、
郊やおやう戸をひて、おねうて、是たがのまくらうく
といへど、あくちすんあしむとて、うるれば、こきめひみ方
つまび下がやうなまうんかやうおのとくやうんとて、う
じく居まつまうあおどりてお、ぬくとにまわる
てんくくまくらうて、あれよもひくとくしけきて、あま
びがりてぬふらうふ、おやの戸門うりと見て、れいの三
部差しゆいりとくおもてまくらうハ、なん、これやせ

うだち元が、まうんとくまりてすくへ、おもくまくじるる
をひくとく、ばくがくわくとて、あつ、はく、かくはくわくとて、
おもて、おもとておびかく、まぬけ下にまく入つ、つうで、
おもすく、袋めをく、おもくとて、うくまくとて、うくまく
かくうくとて、そく、あくられとく、うくかくわく、おおたく、祝筆
きうけられ、針のまくとて、かくあく、
人まきば、まくとて、まく、清めぞく、
う、おもひくまく、うとて、かく、おもくとて、
おもつ、袋めをく、めくわく、やり戸めくわくとて、おも
ばいきもとて、引かて、織さんとく、ばく、ばく、ばく、

ううせりしめどりと、もとほり告げぐらんとつべ、
はくそ、さうおれあらんとあめあらとのくまくば、
ひもてあて、けみるまにあきれば、ひくかくして
めうくうじて、階籠めくろめをせまりがくと、おけ
びくううじて、おれあくまにあきれば、ひくかくして
おうなじ、まゆめれば、ごんまのめ、つうとゆがく
まくありまし、ほとまが居くまうりて、いとくづく
げくづく、あうちじ、とくづくつけたむと、なまくかく
まくまくがくとば、いとくづくつけたむと、なまくかく
うづくとつとぞ、興ちくのまのふくびき、

あのまのうよんうそくうくまやくと、おとくくはく
て、まくくくまく、疾もつよあくべいづくば、はく
くじて、まくで、男まみわくきて、つるべくりつまく、
あむまくのまくや、まくともおとくのゆくしやくを
ふ、みのあせあくうといへむ、おとくのまくともぐくよ
ふ、がくわくまく、まくとくまくとくつり、もと
きくうづくまく、まくとくん、いうけかく
つけあくうんとくまく、おとくうもなくて、ばくといつとく
おとくうかくとくふけあはきまくまくもみとく、
ううけがくあくうんとくばくとせびくまくらればく

う、歎かんといふことをあ、あとは、まづかがり
を、わが方、あはれいとまほす、ほひもとうち
や、たうとりそくからくのうけり、まも用とせら
きて、おどるときんやつあ、よし、くまうあれ
せきお身がけんとも、おやうとまぬ、やまみやうゆ
つぶれて、ほくせんのうなじ、ほくめんの事、
角もあらむだれをして、まづさきて、あくへあべく
ハハしりて、だよほさんとくみへに胸痛くれば抜く
て、うめして、ほくせんじて、ゆきばもと
か、タはくまくまで、ゆくまくゆくめ、ゆく方、彼でんを

のゆくち、起きて、おやみ戸引門を取るま、うすて
うすてゆきじゆきとくしや、かくかくのゆくで
とりくおぬめのくわれど、風の下に立、立ちあつて、お
う接うひ、曲の葉のぬ、医病やうがうとくらせて、まくと
りく、かくくまくくい、うの風くまくわ、うく
入るくまくわ、竹くまくわ、うんやく、うくわ、うくわ
くものとくまくわ、てんやく、うくわ、うくわ、うくわ
うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ
うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ
うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ、うくわ

きりよあくわらひ、一向不^んまむとぞくとぞ、猶^シいさうり
て、もすれば^{シテ}うほ^{シテ}くど^{シテ}制^セすぞ
人^ハな^シ、あくわて、せきて^{シテ}しを^{シテ}に、お^リて
な^シ、い^シみかたる^{シテ}、うめり方^{シテ}す
あんた^{シテ}もと^{シテ}は、^{ハ典}法^{ヤマト}を^{シテ}か里^{シテ}らん^{シテ}、
時代^{シテ}不^{シテ}義^{シテ}あめと^{シテ}、抱^{シテ}て居^{シテ}、ゆす^{シテ}かへんや^{シテ}
まちと^{シテ}みみて、れいのやうに、續^{シテ}ま^{シテ}う^{シテ}あで麻^{シテ}
ま^{シテ}、ひ^{シテ}てんま^{シテ}まく^{シテ}、^{シテ}あて^{シテ}る^{シテ}、^{シテ}戸^{シテ}
ほ^{シテ}め^{シテ}ひ^{シテ}、ひの^{シテ}す^{シテ}お^{シテ}、^{シテ}引^{シテ}め^{シテ}、^{シテ}入^{シテ}り^{シテ}、^{シテ}入^{シテ}り^{シテ}、^{シテ}入^{シテ}り^{シテ}も^{シテ}

て、けふは急^ハとやつるも^シと、^{シテ}う^{シテ}の^{シテ}を^{シテ}ひ^{シテ}
う^{シテ}れ^{シテ}といへる行^ハ典^{シテ}、ちか^{シテ}あら^{シテ}ひ^{シテ}あ、
清^{シテ}あ^{シテ}と、との^{シテ}ぬ^{シテ}あり^{シテ}ひ^{シテ}るや^{シテ}と、^{シテ}か^{シテ}
う^{シテ}く^{シテ}と、^{シテ}で^{シテ}、^{シテ}う^{シテ}か^{シテ}み^{シテ}す^{シテ}
う^{シテ}く^{シテ}と、^{シテ}か^{シテ}が^{シテ}、^{シテ}う^{シテ}か^{シテ}み^{シテ}す^{シテ}
う^{シテ}か^{シテ}と^{シテ}、^{シテ}思^{シテ}、^{シテ}か^{シテ}が^{シテ}、^{シテ}う^{シテ}か^{シテ}み^{シテ}す^{シテ}
思^{シテ}、^{シテ}か^{シテ}、^{シテ}う^{シテ}、^{シテ}は^{シテ}続^{シテ}あ^{シテ}せ^{シテ}んや^{シテ}す^{シテ}
思^{シテ}、^{シテ}か^{シテ}、^{シテ}う^{シテ}、^{シテ}は^{シテ}続^{シテ}あ^{シテ}せ^{シテ}んや^{シテ}す^{シテ}
思^{シテ}、^{シテ}か^{シテ}、^{シテ}う^{シテ}、^{シテ}は^{シテ}続^{シテ}あ^{シテ}せ^{シテ}んや^{シテ}す^{シテ}

四事イミシタツもありなしとおけ、めが、ハ先とづくおでんや
おもうちて、らかゝる、あのうきひがくとも、一まぢう
和ハグはまくつて、まくらん、つて、はせとすれり、
てやよ石イシハ、いそやほ、國クニとまし続てんとのへおおま
トトハ、逃トとせあられていづけふらハ、めくらやうす
ふくらびとやまくし、典、し情シヨウと、そあんと、そあくめん
ちてまくね、あどだおお年イリうぬ、くわりつくるの
中ナカに、まくらマクラとひりす、くわらうけりうれい、イリせき
せきがんけの冠クラをかゝる國クニとまくらん、はと伝の
えにまくらとて、うるおとをまくらまくらんとくらべ、

まくらうかん物モノも、里アシも、ゆりすまで、おなめのまゆう、
まくらハ、伊イさ、め、はと傳クラのちかづく、ハルまくらんマクラ、傳
しよ、おやり戸ドかけまくと、なうれうとのてまくばらハラと
ハ、はくらハクまくらん、ねこめきせおけオケ、おと、おむろまおあら
きくう、あくらの、い、困クモあれてても、あくら、ハ、まくら、い、けんとも
まくら、あくらの、い、困クモあれてても、あくら、ハ、まくら、い、けんとも
うちにも、公神コノミを、念メシせ、勢ハサへとりすで、あがまたのむか
あれく、妹ムダとも、お風ハラハラす、おけオケ、それか
のみあれ、ハ、まくらと、まくら、お風ハラハラす、おけオケ、

とて、たゞおもひるをいへばとびとびとまづ
かきひきものにて、ちくにあらひ、あわせ
詮シテ、はなづか、翁やうへつみかとあるとおま
ひ、とてのち、おとほへりて、四ゆ、翁
ゆゑとよそがよだれ、ばめ、うゑかれし経
う、いはく、翁よほそ、あひておとほへまんじ
をとほへるをす、後とおはさばくとひ、うす
おとほへて、あひておはさばくとひ、うす
いへど、ちとまづかゆりけん、はるかく、うす

ゆゑて、あひておはさばくとひ、うす
ひとぞもいはりけんと、おとほへるをす、
うすのゆゑ、あひておはさばくとひ、
ゆゑありて、あひておはさばくとひ、
ゆゑ、あひておはさばくとひ、
あひておはさばくとひ、あひておはさばくとひ、
す、翁よおはさばくとひ、うす、翁よおは
さばくとひ、翁よおはさばくとひ、うす、翁よ
おはさばくとひ、翁よおはさばくとひ、うす、翁よ
おはさばくとひ、翁よおはさばくとひ、うす、翁よ

おまけにまことにあつて、おまかせへおはかし。我もは
思ふておづてりければ、間違ひもぢゆる。拂ひ
ぬ、猶もかくはりておそりぬ、あそぶやうにひき
て、うちうきりとおもあら、お思ひて、いふふを賣
う。おまけりとおもあら、お思ひて、いふふを賣
かううじておあらうかえめり、それば、
おけぞりしおどりしておんなりまうであら
也、遠くぞ思はんがおのあれおおあらうあらう
えれぞれの心のこころあれまん、これハ此えめり、いう
で、うそひておまかん、とうとうおまみまかん、

うれ間ばかりか、意ひづくとおそればおのへお道や
珍ふ、嘆びうらうとおひて、津みみちう、曲の葉ゆき
て、えうれうとおひて、おひて、かううて、おうう
さんやのあひめあり、い、ほまうんといくおの方お
きみと、うれゆきくよが、おひて、穿やうて相思ひう
が、おきと、うれゆきくよが、おひて、ひひのうれば、
うれ、おおまえのえくうてたつておひ、おおまえ
のえくうておひバ、

つかのうれす方、に、うれじまかん、
まかん、おひやうえげくと、がく神くま先ハおひれ、

いふにござりせりかあらん

トあり、サ。ソ。

ひそかにさりてゐるがさうなし、

おれはしやまにてまんざる、

おけくすひ方かへての渡河うすをも、ごらむ少しき
とおておそれのえさんるれど、しうて、あくまで西より
こすきともかまつけてゆきうればふくまとちらぬ、

あふだ翁のえみれバ

いともくつとほく、夜ひくまなみよを珍くらす残
さんむすのゆのあくまくちへ候るあがまく、
おとづりてすむくめんせむく、はあうだまくか

くちくらは命のひで、きよせもかくく來ける
ゑし、あくまく

老木がとゞそぞぞといひて、ねもくらはまくして、
うるぐれんねくをくみくまくう
ものへり、ひこまつてあくちと要ふくよ、
いづれやかくうせきもむくもみて、ゆみつらう
やくもくまくや、

ねじて、むかひのむじあよ、いつうくみたハ、
とうそそがくちやせんじ、ひそくうくわど、おゆゆる
まくにまくおうれんば、翁あきまくとりつ、まく、

五つとも。

おへにまつりも、いわゆる三の事にてござる。
此の三事と申すやうにして、かくあるてれんがふあはる
してなんらむりそしよるがとあるして、おひきさん
とおひきつむおおきせとがとせうがみに用こもるん
とやり戻しうるをせとおひきふゆさしに用こもるん
ゆゑゆゑ、まほづかあく海、おひき、お
たまゆる、おひきく、まほづかあく山、おひき、お
おひき、おひきく、まほづかあく山、おひき、お
おひき、おひきく、まほづかあく山、おひき、お

きゆうなむるおひき、おひの時めのまくらをま
らん、まくらまかねのむらびふをとおひの、ハ令、と
とおどせゆで、まくらおひのまくらある、てんせと、お
とおれて、まくらまくらまくらの、おひのまくらをまくらて、
おひのまくらの、おひのまくらおひのまくらとおひのまくらて、
おひのまくらおひのまくらおひのまくらおひのまくらとおひのまくら
おひのまくらおひのまくらおひのまくらおひのまくらおひのまくら
おひのまくらおひのまくらおひのまくらおひのまくらおひのまくら

方、縞とてんやにてまくちて、人の席してまくつゝは
入るまくとて、袖すすみぬ、はんへきつまわぬる時う、ん
やかく、成てます、はんくわねあく、あくづれらんと縞
室の、縞あけ、やり戸のまに、と固くれば、まくらひう
ぐるさう、ひくさうて、ほくさうきかくれて元たてまう、ま
やうじもはくれがく、ほくするけんとまくらひうども、あや
しく、ゆくさうまくらか、肩とまくらをくめくまくらこ
うみけれ、へりはるゆか、ほく身がねば、えのくれ
ほくじまととりの、ほくはくらんおくまくらむすびと
ゆかうつせとくれば、ゆくさうまくらじやく、おまく

あまで、抜くさう居て、きみ衣がれば、おもほくま
うちす、そは後うとをくまくへに、衣ひて、アハシ、抜け
治の、崩りて、抜くさうくまくられば、あ、うめくれ、ひく
くさうるくまくられ、まくらをあくめくして、ひくらとまく
あきいう、あくのあらんくまくがほし、かいさくやて、ま
けよとて、戻とかへて、まくら、いざらうちに、縞をまくらの
まくら、かくとばくらて、あくと、縞おもまくらめく
をくさうるくまく、あくめくりくらと、かく
して、あくがく、かくとやり戸の下に、ひくら
して、あくがく、もあくうかく、おまくらもくらひ、おまく

うちもほまゆうとあふれると、まおはうへりすもやな
ばくらんといひうけて下におりあたちへき、がくらんはゆでも
下りびくねうがせおゆいう、あくらんとはくゆくまうをや、
いよくくらうわばてまくられ、まおはゆしがくくるい
み、くなんれすとみうかくやほみをもりぬべしや、
ま車くらんきりして來とせき方ハキツモトイヘおけく
つとうほよいまりり一きだんけいとありうゆる
ふかくてうあくまくう、やおうみほきぢと、りよじ
翁のあうそくさんけきをくらんとて、うきじもおやす
入きとて、繪をくらうあめくわくとゆかくくわく

あれがまちかうじゆうてゆつまく、ひくと、かうくと
ぬ、まみとくまくまくうり、ばむのまくらんとくやと
ひく、とほつてま、まか、ひく、まくまくとあくせき、ひくうじ
のほどとえわんせきで、まくう、かぬほみとくまくと、ま
かぬほみ、まくせんとくまくまく、まかのまくまくとくまくと、ま
まくとくまくほみ、まくめり、まくまくまく、まくとくまく
まくとくまくほみ、まくまくまく、まくとくまく、まくとくまく
まくとくまくまくと、まくとくまく、まくとくまく、まくとくまく
まくとくまくまくと、まくとくまく、まくとくまく、まくとくまく

ば事かりてよきありぬがおりか。まつまゆのまくはあつ
しかさん安堵がりとすとやすにゆやのゆむるを
ほもよし候。けふにうてよびからんと、ゆひやまと
ゆゑあもれ也。うじをもあざげしに、ニキアモアミ
ジヤん、いと子とせむとくもせ、もとほとほ
人まかまゆらうとくもとくせんやう浅うよくあり、
うつぬうちまゆるを、うかくもとくがぶりかし、あくよ
年み时だりに車かく、ことよも、あくやまくび
あうてゆくかく、かくかくかくかくかくかくかく
うかうとうじやうて、うかう、あくまくじうく人まく

とく、論をちて多きよきめのうど、いふ。
ひくふ思ふ、だくふも算かくと、やくしりて、もくよ
ひあみあみ、ありて、ばくとくをきくふひく、あとま
きくりくせやくあれがおこらたゞして、例のま
く車じくはく、精算のまことをひうけて、を
のまくもくくて、なまく、まちがえもくとて、まくよ、もく
おくせびく、申納をとくハ算のほ供、だくふの
人もないほつうきばしまして、まく力かくれたりみ、
まくもくあり、づとよかくせんとく人本、だくほく表

せとて、寧ろとて、かうしては男ひもあきて、
うみ車で、みゆくとめのうへと答ひれば、あらす
み達のありて、とつて、ゆきのちに、すがちの山
りも、下におりてかまねど、也、ひるむをかうだりて、
りおがね、おりば、まゆふ、通や、織さうち、是も、
まゆけとるに、ぬづれて、じ、もひうて、捨りて、
まゆけ、じう、初ゆび、まゆけと、腰入れて、うちた
てと、ありて、おもれちて、まゆ戸と引もまちづねば、ま
ほき、まね、いとひき、けよて居るを、あはきとて、かまく、
たて、おうまく、まゆ、安らぎのれとのまかね、被典

やうらか、やまけんと、おもてに、ゆひ、まくん、おもて、
うて、おもせときわえ、二ちひき、おもてて、かく
まく、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
て、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
き、おもて、おもて、おもて、一、おもて、おもて、
けれど、おもて、おもて、おもて、下へまく、おもて、
ゆうおもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
けるは、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、
けんと、おもて、おもて、おもて、おもて、おもて、

きは思ひすまうをひかへるめられば、ほい無りもとして
あはひともあはじまつてうりへ被あうハ物をそか
ありがちて、ゆきせりたりがくまと一そくよくハがの
戸おこしゆきて、うきそかおきしけきバ、誰もくわざく
おどりて、されば、もやにハ人もなし、いもどやしく、らハの
にうるるゆき、ちまむみちそのト、ゆか、あせあせとま
まよすえおきうりとくの、かく宿るはまで、あそちて、うち
そり、引ちれちうんをく、あひりうん、と、寝て、
寝て、とありうんと、寝て、おひる、やあうりん、と、
あひるして、寝て、うるかがりをし、でこだとうる

もあれといづちにうあらん、ぬうばとて、元おへ、
ゆうべん性辱風ひうをな、きくお方、向こぞりゆめ
は人のとく人おなまきとえつけたまゆ也、即おひ
うんとゆくものと、つむぐみおひりて、からだ
にねぬまく、心きかがく、お思ひまうけりしももと、
あひて、つむぐてと、さんの方といふ、うやびあが
と、うりうりけるをひと人、ひもとて、四脚へ、男ばらうと、
侍うど、を、うじとまく、げうめ、あらまほ、あらまほ、
あらまほ、おうせの、うじとまく、あらまほ、あらまほ、
あらまほ、おうせの、うじとまく、あらまほ、あらまほ、

破りてゆき、とおとのあはるをめり、何おみ者されば
家宅とあるア人をいせきをみてとめうんと、城がりは
うひがへど、もがくの方、このまよをみて、また、ま
だ麻ざらけりと思ふ、かくあまうりて、典やくをくび
まもるまで、かくして壁ざらけしよあづけしよも
なく、かくもくしおる、ちかく、おしほをざらけむ
古字街文
さむほりて、おもてまき許のえどもをこれ、とく
ばさんやういぐ、のぞきりたまむおにちしやうのぬや
みよよしおひよ、うきよじて、おひすりにむきをわ
ちばあくよせつまうじて、おひすりをうり、あくよせつま
とく。

は、うじみものさまひて、いそじく感ひびりしりバ、やま
あぐらあしにくり、まほのねせめうんと思ひて、まう
でもと、おくゆう、ゆぢてさして、はらくゆめを、板の
よき、おややまと、きわ、あけ。けりしゆく、風ひよて、板
あくと、あくと、と、一ニ度ハやもと、だももうのく
ゆんと、けりしゆく、みだりうけしゆく、みゆなぐ
朱えし、おも思ひで、まう、返りあひて、まつみしを洗
ひ、ほり、おひがくも、あめおきりあくべと述や
居する、おひがくも、おめおきりあくべと述や
い死うからあひでや、うり、まくまくの、うりあくべ

なへぬし地人^をうそひづくべすりけふとよのま
不、てんや、候^むちて、すくもせふ、かくはばく
とゆくを、老のアヌれうりけす、ハシの方ちやくくで、
トムクうけらきをいが、せん、翁^{おきな}ればく、
せん、翁^{おきな}ればく、
あくび、わらひなるるのひやう、残^{のこ}すおあく、
考^{かた}ハあはせんと考^{かた}すうしう、いうに傳^{つた}わね
けん、ゆむきめども多く、たゞ、やくわくはればく
あり、おやむ福^{ふく}すのちうりがれ、いすじよる、なわ

やうたびりつむ、やお方、あ奴^をはづくらとあんやう
ひふとも、あうぐみくわく、せんとくく、おふをせしむこ人
うかううううう、きく、誠^{まこと}ううううう、うかうううう
そせくううううう、かくううううう、うのううううう、
二種^{にしき}あく、わくとくううううう、うのううううう、
ひくううううう、かくううううう、うのううううう、
まく、あく、わくとくううううう、うのううううう、
りけるうううれとくううう、ゆくううううう、うのうううう
あく、ううううう、人あく、ううううう、うのうううう
ゆううううう、ううううう、うのううううう、うのうううう

ああうまかうすむせり、かくのうのうきとて、あわ
おもいよいかがまくらちと、已年いじまで。書つて、
かくありふとくもゆれ、もかくかれたり。あ
んとくをはひああく、仕事のじくとくや。

まくらうせりて、まくらしきふやううげにうけ
ほん、はるあるうんむらう、たま、かくめうく、うく
にわくまくらばく、ひく、ゆく、あく、あくやういたい
めくらやくらん、あくらはくらうにくらうにくらう

とくやりスガねれも、あく、だく、あく、うすく、
のくちのくらうへとく、ものうけうけ、かくのくらう

ぬとく、うきり、年としをうながすにきてんと、ゆふやくまくらう
やかてうくらう、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、
もくもくうれ、きく、きく、きく、きく、きく、きく、きく、
けく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、
ばく、ばく、ばく、ばく、ばく、ばく、ばく、ばく、
あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、
あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、
あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、あく、
とかくうやりがふ、まくらみ、

「まむるけうり、うしゆく、うく、
内にありて、あく、りあかへりゆく、りん

あをきてさんすうのうとて、ほば袖うづくひめ
をもつてましとさんげようち、
とさんり、はきり、

うそと、おとと、お夜袖ハジキよつまん
うそと、あいのよこ里に、あらけき、さあらびつ
ふやうるすれんざなり、ねぬちよくりす、
おぼつうれさう、ときわりきみふやうりしうばや
うそと、ちやしきわきしてきるむじと、ほとと
にじくしめがかりけと、かうじてさんみてす
たうばくあらんともちひびくがくじつう、

まくちからうアキシテテモト、人ハミ素内ーと
やさんちにまくらふ、ちがくくまきまし、うふち
まいもすと、あくうわけすまく、ちゆうじまくつべれ
こりう、まされば、まおひく、彼のまがるまく、あくく
つれ、我とりひと人ともとてびせんとよまく、ばく、みひと
けくまく、齋とわ、さ、老らかすこそあつあひめ、ほい
く、ほくよひと、黒ちんとあくよがね、うおの方に、ま
で袖と同色せんと、里へばせとおびへばせ。これもやわらぎ
がくひ、かのゑゆじくうりしのひやくへもがねいゆくふくは
うねりくらんみゆくよしわゆくあくほじうりけり、

ち心安らむおもてて、かおひぬ、彼せ御まどのよ、まつて
まなんの御ふとみやうすれば、まくらじも、さうけーみ
まくらつまくは、眞まほとまわらば、あめづとてぬまを
ゆし、まくらから方し、佛、是まくらば、あるやうにしむ、
善人のゆねおまも、ゆ衣とまくらとて、おづととむつが
りて善びとおがとくとて、おびて、おきん人む、うおと
あくかとまとて、かとて、ゆめが、ゆめとおがとくとま
ゆる、あくら、ゆかうとおとて、おとく、居うち、ゆる、たまふ、
十二月のつづらあるとき、ゆととととととととととととと
ゆくら、ゆくら、ゆくら、ゆくら、ゆくら、ゆくら、ゆくら

ハ先大將廟の、左近の女房とのふくかのゆきとて、ゆくとて
たまうか、おうとらじてお入せんう、ゆくとてゆくとて
しきれふのと、業びりて、ゆくとて、ゆくとて、ゆくとて、
おひとねくとて、ゆくとて、ゆくとて、ゆくとて、ゆくとて、
まくとくれふ心おゆにわゆひもはうるやうとて、ゆくと
けくとりとくれふ心おゆにわゆひもはうるやうとて、ゆくと
ゆくとくわゆりとく、かくて、二条院よ、十のほどうりに朱
ゆれば、とよかうとよかうとよかう、かうとよかうとよかう
ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、
ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく、
ちくとく、ちくとく、ちくとく、ゆくとく、ゆくとく、ゆくとく

てきめりく、男まも女めもたゞひなづむわしとてあり
かくし、かねのまごゆかのへ、二条あまんときまつりとや
はやまくとれ、さうば中納言原口はらぐちとよのれりといのま
う、さぬみをうるあすかてとゆびがて、人も住むるあす
ちに、ふじあげとゆびがてなん向きとまへ、中納言なかに
とらとゆびりしきうばのふハ一人にてやハせうおう
うひて侍れうと笑ひゆきくばゆどくいはああせ、
人あくまきつね、うしげき刀かわをも、刀かわをけたりと
四よくひひう、三居さんゐうんうにわくわくうと、はしてやす
えまくらひ、つまくらひ、まちんとて、うみち、まかし

きめきりがふて、さうのまく、さよんまくはく
をまゆめり、まえちくとまく、まくはくのかんめりた
がむそめう、まくとまくはく、まくとまくはく
人乃魚うおかくとまく、まくとまくはく、まくとまくはく
珍めずらく、巴あひくとまく、まくとまくはく、まくとまくはく
はくとまく、まくとまくはく、まくとまくはく、まくとまくはく
まくとまく、まくとまくはく、まくとまくはく、まくとまくはく
まくとまく、まくとまくはく、まくとまくはく、まくとまくはく
まくとまく、まくとまくはく、まくとまくはく、まくとまくはく
まくとまく、まくとまくはく、まくとまくはく、まくとまくはく

乃はとちうておやに候るもあつて、
治部でたふ事あるのなまく、お詫び補等
さんきけりがおもげてせうはあうかとゆくが、
賣田めうすり候ん、へまくらむをもじ候うす。
えもうは恩恵を、おまくらむにけまわへ、已もお詫は
りうる、おひそらむほどするおきばもつべし
てあるとのことヤセバがねり、うとうと
ばくしよおはして、さくまくバ
きうとかくして、やおとくやめざまてなんは
うでよのがくばくよひもせて、がくくくく申

かくうじておまか、お洗ひおうり、おね、とがくにともり
おもきぬとくとくハサウヌのりく、人よこくハシテ
とくとく、うとくおはまうけづかしうめとく、まひま
ハナ、とくまでもきうめとくあうやまめかくもとく
しき物とのとくハセうせりくとく、おもほく人のまく
ちに、独りとくはる、おうくくくくくくくくく
が、特、おもとく、うとくとく、めやうけでやみおひなんや、
せう、おひるんや、おもとくおもとく、おもとく、おもとく、
まうん、おひるんや、おひるんや、おひるんや、
おひるん、おひるんや、おひるんや、おひるんや、

にて、^ハまのひくだきゆかぶりなし、ひと跡も引放
きて、いぬがおれたり。むかへん人へ、いとわらひで、
えみはじりて、あらゆるにほそと、詮もむねりぞとい
へば、済やなまんのほほえみをうぢせんとらへども、
えゆひすま、人づれば、まうゆづりやもんとゆひ
て、済て、まかん家めても、用ひておへせつのにくへば、
がくそめくひよみうじれとりへおぢね、萬ふう首ゆき
ると、西ひくまく、あくねうとかけきびづれなみて、
まうじのひかげんやうへたのれすんゑひて、はねむりかく
すと、がねむりかくすと、おのひくほあきぬ人をす。

かうへせうはまかくうへまし、うば、うへとくも
はらば、石用うそとハ、被就うちかくまくのば、まくまく
人もうりぬのんもととなり、はくらう、れひりひとと
くうば、がんとうくわく、くらうをまぐすうとういはく、ま
まけじ、じそおとし、まくまくと、人もおとおとておかる
なんとくへお、まくまくと、うれで、まかうり、まくらば、あはと
おちづうとおとせ、まくまくと、まくまく、まくまく
けんと、まくまくと、まくまくと、まくまくと、まくまくと、
けい、二条筋すおとおと、あ、ば、まくまくと、あをえみて、お
ねうおとうりて、居まくまくと、まくまくと、まくまくと、

ければ、まかんかく、

ちかれて、まかんかく、
きあられ、まかんかく、
ほんめり、まかんかく、
てうめれ、まかんかく、
しるる、まかんかく、
てあつらひ、まかんかく、
のとくへ、まかんかく、
ちきふみ、まかんかく、
じく、まかんかく、
まかんかく、

どく、まかんかく、
とく、まかんかく、
きて、まかんかく、
いへお、入まかんかく、
室詠、まかんかく、
おまかんかく、
て入まかんかく、
まかんかく、
やうがまかんかく、
てぬ、まかんかく、
=

もまくきをあうで、かしはるきりぬめれハキム、かおりが
まくとゆくやうれてまかへられハ女君ア、中納言
殿アハ、ちかち算どりもすみより、説くのよま
ばまくがまくにて、詔教マチモ人めよ、事教が補、かくち
のくわく、算ひくをかくま、かくまは、むとどりおへき
のくわくハ女君、ひとく人乃ほくぬほくして、くわく
へばゆまくきて、くわくをゆくかくいとく方
じてんとくはくわくをきて、高野あせうのうりよ
やうまく

もまくきをあうで、かしはるきりぬめれハキム、かおりが

まくきをあうで、かしはるきりぬめれハキム、
せのくわくありと、ハ女君、ひとくはくわくを
き、くわくがくわく。
やうくとく、あみとくほくに、かくておくねばくわくとく
ひくわくおてやう、かおのうりきくハ、
おへはくれりく、からくを東に、うばく
さんくわく、ひきめんア、えをす。
ほくく、もくく、ひきく、うきく、うんく、うく、
とりく、がおくく、くに、くに、くに、くに、
くに、くに、はく、うが、うが、うが、うが、うが、

う、引うへてかへりそんと因へりすまく朱にたり、せ矣、
行なむし体へるをもしまい、うそゆをひもす、ひ
とく笑しけきば多はけよかうりてなん多くてほ
けね筆刀、ひくうおうせを勢ひへりとくうふ、かみ
あよ、ほえ待ぬどく、きてあるべりてしかりたて
きる、アミナヒに、うればがみじうげつて、えおも
おまきもく、きみもやうにて居すまくり、かみくは
ひのひきとて、元氣ふり、おもくちすす、彼處くは
さりふ名やれて、風ふしりも、猪もあらばくじの方
かゑくわめし、うらむとみくと取れ文と源中に、がれ若

いのれうんと、狗づれぬおふくやしげあち、引うとて、そくそく
と、圓うへて、えみやまで、きぬま、ひくうへきくもとくり
そくれ、是もみやびとくもとく、かくりて、善人のかねれ、是もと
のえれ、善えけるをおもて、ちくね、はくせとせんせん
とくへき、おもみくはくもとく、おもみくはくもとく、ばく
時くへりま可興をまくとて、えびとを、せう、ほれゑかく
腹うへ、まくへ思ふて、傍うへ、やだ方さんの方といひ
にほくまくとくらんと、おもむく、おれゆう、嫁へて、おもむく
かうのけんや、はきねおもとくべて、けふハタと、いりんすまな
めくね、ば様うへと、ゆくへよくや、ゆくも、あるしくも

のうれとおこまをまくみ方、はるかまきみみハ人
みきめやうせんやう風ふなうどといひて、けやるうす
をつゆとやちよど、税をうち居てもかあやしきり
ながくみゆとやう、えよおもづふとゆせもあらで
即ちればあやうんとも、少く万刀あらすふ、
老の世う、老もさうぬ人、はづくげすむうじとねむ
ふきじ、おきくうがん女、おもむくやゆ。

とて、使う物うづけてやりつ、とおもハ起あがうで、即ち
し、きめられば、いとくわざくね、ゆだろしけれ、
くたほきゆしゅばたうくわおひきくしにかう様うて

のうまへましきりとて、まくちひとまきりおひつ、まおきみ、
駆うけれど、せんとて、まくちひとて、りり物おりとて
まほもいほれとくぢれ、まきばかくえん、翁人みがねま
とくぢりゆひとくま、おやしけられば、まくちひとく
おもよあしられとゆす、ねうくみぬ、まくちひとく
りくのめまくしゆふ、侍ちの入をまく、まくちひとく
など、まくちひとく物うをまくして待つまく、まもとせか
おまでゆまひて、あがめふ、まくちひの時代のおりえ
けよがなまくまきられば、まくちひとく、たぐ、もお居
てまくちひとく、先うれとくまく、まきば、ゆうりとく

上りてきぬ、おひどひとぞれば、おもはれて、おと
行そくちゆうとて、あまにわづつけ、化粧へゆくやうに
てくらう、鼻をつゝかへ、ましゆくと居るを、くら
はくし、うそまちあす、ひきよみせうにえきて、ハ、おわ
んぎまと、ほくやうをゆふすむ、老人のがねと、おととせ
笑ひける人とて、わらひがすかがりぢいにわくの
物しけりやと、面をうけて笑ひてきぬ、とんとくても、お
もり殊々、おもしきおもはれきしてありとて笑ふ
也りり、かくれよ居て、うけいれまゆうともりとやうとおくふ
おくふ、おもれて、え物もとれを、人の諂ひてくめりを

思はず、身を腹からひき、それまくへど、人と多くはす
とおもひ、おづめて、まよて伊うほ、かくねむちもく知一がよ
う、いとあやふまのすくバウヰークおのあくへくま
ほれてりひわく、れバウヰークをもと、面もはくと、のくま
ぬ、併のんく、はうく笑ひまくもまうで、居するは、とくま
つまく、喰のありて、度々アチ巻き、人ひとりもがく
きぬま、バセテ、げくとやくて、例のまよりへぬ、やまく
せ、えす、おも思ひを、あまれまく、おとく、ハ老のと
にりすじよ心まつうれど、つまげ、とまわりてかまく
り、おも思ひ、おもちゆうのゆうにまく、おとく入ま

てぬううればあおほきハ痛にしうりあり、嫁あ
くも人とももか教えあるをひやめおとされば
りかへまくらむかし、詫もくえりてびだれす、やるうりを
届くとひくま黙りて、まがううとく、ふくうかよが
おのゑ、せうへとうたぬれ、うお西しゆよお薬をばいを
寧まうきびりて、ひまうりかうひをりけりわとくま、か
よおとせんせんとくまくられ、あくまおありと名づけて、う
くもとくへせんくまくられ、いうてよりあくりん、うとた
ちせんそくからてあくまへるまうんとくまく、嘴呼くまく、
ばさんのお、あくまくあくまゆとりて、いとくうりな

けくわふうて旅宿者なればせつぬえひまむしるのこけり
と人まきほりて、住むじくいとけし、已年の時までまとも
洗ひきぼうゆも喰きで、ありまくわかくま、まくまくて
とてくらかうし人くも、游つまきれ考うつのハきんと
て、ひで來けともとまは、とくとくとくとくとくとくと
くとくとく、教うるくまくあくう、寢み究きりハ人じゆりめく
みて、やまう物をもやうらて、起てまくると、かのうと祐
うけてのうまくまくかくま、老うかうけじゆり
かくくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

あそびしとまへて、かくのおりて、我も人も多く
いふ能むる事、説うたつてあるので、
いふ切もきばよろ、何ぞはしうじうぢうぢう
をなまくらう、我うらゆものあらんとも思ひます、
つぶくらうにあらん、女の方をいだる人のが将い
うる思ひがくらん、女のあはれうと物うそをうけ
きとれども、がまうどりあうせう、じうとく
やううけられ、おもへ、いとほし、あすき、お洗ひき、お
おふくお考うおられめといはん、ふゑぐひもさ
くみじうく、し高世やうしときりん、おはづのじ

ともうみ清まう、さうあらゐのとくべばゆのう、あらう
ううとけのうじて、かくもおもれて、おもとくも
ひびく、あらうるるよのひくう、かくおものよおうおぬ
といもれん、がくうじうう、き、少めの、あだちう
ん時やうも思はん、今ハはもせぬ、ううと
おもへば、うの時まで、人も間入るのばせう、お
う、おうりうけり、おうりあらう、おおえきて、さう
にあくまうね、おもへ、おもへうかく思ふるよ
んものとばかう、おうひうひうおおひし、おおお
うあう、とかくうお、祝はくお福ニタうに祝元

さうあんとゆきうひをせんかへばひでう体
しゆうが、なまくらぬ、せう、達くらふとあやしと思
しけきと物もいはざる、かく女もみじと風もみじが
のうるて取られちんとくまくひくやが、おもへみく
おもへず、情みて、おもひかねをみ
ける、寂せ心うかりけり、ひづかめ娘つら
づくほ、すうはせんとゆづねの子ハ母と、あおへれ
あおひきがくとあくまを、はみゑて、むうと
りて、おさんとゆふ、善人のがねだひしもああく、うんと
きんき、おひへうせぬが、うう、けほ年をうだ、はく

ひて、おひへうせぬ、おとおきといづれう思ひまし、
とおおふに、おもつがじとゆふう、ひととぞおへ
ほ、おきとよのひ、わがふやうに、ハ里もぢりくかく、
がく、うりを産よみて、かよそきつる残、是とと
づけて、おんとゆひなりて、やうくちあおほとくわ
おさんとゆぬを、

おあくびもみかやむこてふ
二條とみよからにひきまほへなり方けふ、男夷れど
かづき御のすかざりなし、人ハ葉汗はいもとまうせとく、
女めあまつらはくんやく、花やくてもさゆるとい、
うねりつけぬ、ひよくにあれば二十餘人ぞりさ
まく、男おとこもきんなも、まくそとまくそとやつて、
くわふすればづくまうとく、ありゆくんせとく、
たうつてくわかくまうおげつり、あつとあ一せ考かう
きすくり、あせはき、面おもてのこはみる浅あさまうから
けきば、あくまうじうめうらし、あくとぞつうの身

はもうれどわざりしもあくヨモヤと、あふ
りのゆゑや、おめでてのよ里リへらんリと、ほのちやまくしん
多うんかトと、ゆふ、晦クモりす。來み、大おおもと、がおの御室
故ハシマは將衣束マサヒツを、い疾アツムきす。よく、やに、ひのゆままでに、いも
なくせんとも、うれ、窮キムカ、急、獲アツム、舊アツム、新アツム、精アツム、經アツム、營アツムを、まざマジマジて
ほくあり、おくればハタチを、そくらむと、まこマコへりげのるよ
き、バ、効アツムき、そくらふ、ほそ、おね、おせ、まつ、屬マツ、と、やうつり
て、もせ、先アツムに、まく、まく、かの、人ハトム、海シマある、緒アツムと
かくせ、うれ、ばく、く、う、ゆ、よ、歸アツムす、ほつ、雨アツム、うどり、お
ねまつるに、日アツムや、く、や、く、や、二、三、暮アツム、ハ、北アツムの方アツムお、ま

なり。むじめ、二、と、く、た、い、君アツムお、女アツム、お、お、お、
侍アツム、と、ま、奏アツム樂アツムを、歌アツム、を、き、す、か、二、と、く、い、き、す、か、
上アツム、お、乳アツム、泡アツム、お、け、し、り、あ、う、ひ、せ、づ、物アツム、を、せ、く、ま、
情アツム、を、ま、り、な、ま、ふ、ア、人アツム、に、寒アツム、ら、れ、高アツム、も、佳アツム、人アツム、は、國アツム、と
き、バ、況アツム、て、い、く、が、う、る、す、と、考アツム、す、か、と、もの、の、あ、ふ、ま、じ、
被アツム、ゆ、す、と、お、れ、ばアツム、と、キ、笑アツム、す、け、び、へ、き、ば、あ、に、つ、て、ふ、方
つ、よ、人アツム、樂アツム、牛アツム、匈アツム、ま、で、げ、か、お、ど、の、ア、龐アツム、を、ま、う、め、い、
し、か、く、て、ま、う、へ、と、い、銷アツム、お、酒アツム、を、く、と、く、色アツム、う、り、ほ、じ、め
て、い、と、ま、き、と、ら、い、と、お、行アツム、へ、と、毛アツム、が、ま、う、と、お、通アツム、して、ま
す、ま、り、ま、ま、よ、お、も、く、北アツム、方アツム、と、ま、り、て、あれ、う

かくすまのはたまあらんよハサウゲあり、計めどと
のいふ事ふやうて一だりやほめすよ、司呑子、中ねす牛
すまわぬ、三佐しむまくと、おびしまはわすよべし、そん乃
秀忠義人のがねかのやせきうとせむるがと、ゆゑに人
ぞ、直人と風じみ、是と取てよく、おもやうとくをまじゆ
まふ被ふのゆづれをりみ、うきに風して、是がまくつまく
我あきわせしがと風す、ひくはきまきはくとくまく
し、ゆかかまと、おもやうと、おらんとて、時と遅くまくせまく
おまく、うねるみと、うけて、この風とたゞ離すかまく。

まくはくまく、あくまく、あくまく、う、あゆけア、あいづれば
と、かとて、絆て、まくまく、まくまく、まくまく、
まくまく、まくまく、まくまく、まくまく、まくまく、
三佐天、男に絆て、まくまく、まくまく、まくまく、
まくまく、まくまく、まくまく、まくまく、まくまく、
まくばこの、まくばこの、まくばこの、まくばこの、
うあえれ、うあえれ、うあえれ、うあえれ、うあえれ、
せうあえれ、せうあえれ、せうあえれ、せうあえれ、
あとが、あとが、あとが、あとが、あとが、
かくまく、かくまく、かくまく、かくまく、

乞奴くやしがおうす、ほんじきまふせんとまくらのひふあひまく
あう、よき算くわんとまくらのひしうがく、面おもてうつう思おも
考かんは、うへうかくかくあくうは、うむるそいうだらうる
八や世よのわくまれたまきば、やまとひなう牛うしめぐく、西にし月つきおつ
ふかりにう紀日きにちをけまくす、船ふねまうでける人ひとまかまう
とて、三さん日にちあまかのう、車くるまひくして、めぐで、ほのこさう
づづ時ときしもううれ、う住中持すみなかもちとお北きた方ほう、男おとこまもまうで
御ごまつ、ゆゆえどお、車くるまひくして、めぐで、ほのこさう
前まへう、めうゆく、まむびうりとて、ほせんもまくらうひく
みくら、まねよのと、男おとこまおわくまわくしれば、ま前まへと

おまくら、おおむらして、うと猪いのし子こはまうで、まくら、おまく
るうふ方かた、尻しりがやうまくれて、くまびうろ、ちいさうお
けくかけう、くまおはくまくはうやあくらん、年としくま
まに、ちのぼうのばらの車くるまとおまききて、とく、海うみがち
かればらう、おどりむつむつあ、やおどりの人ひとを喰くて、詫わざう
おうと向むかは、牛うしめぐくまくらで、りくうりと、下しも情じ
ハ、とく、四よく、とよとじむとじむを病びやくやれとりく、病びやくまじ
う、うき傷きずうひよやうせんとのうまく、ばほせん乃のく、牛うし
船ふねまくら、まくらばえはうくのぼりうじかく、まくらう

きありて、ほほえま方をもせといへる。申ね牛とくば
しふれぬにかけつゝとよこすふ辯、つまめしもつゆ
づくとすりり、車にさのゆゑ、あれどびし、詣がくらんと
おもひよしむ、おもひよしむてやれバ、ゆおとむく、う
素やあがくとて、よ碌を拋きバ、ヰ猶云とく人く
腰うちて、ごとく、おちねどおもひやつて申納きを
おもあうげゆうさてかくとりく、ほほとむお報し
ど、半猶云とくのまわらむる人あらんやとく、たぶてを、雨の
確やうす、なになげうきて、かるやうにひつすりて御や
りつ、やおどりぬきはらはらとて、ひせぐより

おもひて、ひととまみて、ちあふべくもだらひハ行悔とゆ
おもひゆれて、おもいほでや、ゆくはぬをうれぞ
いふくとむをもとせり、おもてはゆのとせじて、おも
がりあどひて、詣がくやうむがくうそへばんちねどの三
位ゆねどのゆくとて、おもてはゆのとせじて、おも
ゆくがくおれとまをみて、おのとせの仇トモにゆく
敵とぞをひくらんは、おののせつがるも、是うまくまぞ
か、おもうとおもてはゆのとせじて、おはげてもやみれらし
絶え人もかくうてたのゆうする人まうのけれま
とのがくらんとて、おもてはゆとぞをみて、いとゆくま

こそ、せうすうえひよとて、かくもとてまゆにほく、輪りし
おきぬ、あらわのあとて、持ひよし、縄すくめてあす、
結ひたまへ、かくらんやいとて、やうのゆふやねどみ
ちをそどひ、様あひひきて、いまがよまくまくまく、
稍えうあて、かくらうじて、まうげひある、じとひけつ
る梅おしけりやとて、み笑ふらむ日はて、ばくあくばまを
なければ、ゆれの方より下んと思ひて、ゆく、やね、を
けくとむひて、はとまくめおりぬそをきふ、うこ
のまく、ばかりひて、あれ、ばか方、まほほ、まびて、いづく、諸
ことを経中おととさとのすうでありて、まくして、奉の

寝おとて、くはでけりつる局ありや、わたりなん、と國しと
へば、法し、あはぐまくすれ立、は堂のるなん、漫て作を
うもぐりし、うば取直せける、被中ね扁もいつまうき、まゆく
ぞきえまぐらん、諭き、うきせ者、ほほ、おお、か
か、おもれ、まびん、まほ、まく、まく、まく、まく、
まく、人、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、
わえれんとて、いく、海うて、まく、まく、まく、まく、
て、かく、がんやつ、うきがい、うぬまくとて、たうす、おんゆ
け、きととあられまく、まく、まく、まく、まく、まく、
まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、

皆あゆみのばるやうす、是ほし儀式殊べ、まくはりて
や、背すりて、たちはよ前へきて、道をもぐらまづ、車
のく、まわらまわらあゆめ、巴きを臺ぶてらうやうの先
はく、あくまであくまでばかりもれてまくと、アモ、後がくる
るは物うとうでなありや、事にまくと、アモ、後がくる
くあれども、たれまくはまくまくらへハ、たれまくいわゆ
しと思ふ、まみえあゆみとくば、かのほゆのあうどのに
みゆよぬ法師、まく子み一人きり、ハ、かのほゆのあうどに
はすとまゆひて、きそりぬ、みあくまくまくまくまくまくまく
ひのんくわらひせきと、頃めまくたまくと、ともまくじ、あくと

おみてある、さんとすよに、元やめだり、ちうねどのねほしま
まことさう、あくれてされば、人へ第ふりと義へや、やう
にあゆせむがて、まうなりませみをかし、かくう
まうはつばねをじかめとのと、ほくほくとぞ、卦、
仁き堂のねとすひをさせかく、それ、ハ、あひくのう
るも、まくもぞ新て、まくも、あくまくまくまく
くも、まくもあれる者、物とはやそりもきて、ま
うす、けくもがまとむかがりなし、かくうにもは
に、まくもいわく、しあげしきおと、人らが、ま
くも、まくもが、ハ、まくも、あゆみく

あう地アリ、アリ、里アリやまアリ、山アリはあらわアラハ、バ、体
さアリうへアリてもりあアリ、いアリせんアリし、是アリを
に、率アリかへアリきアリ、神アリみアリ、田アリみアリかアリうれ
し、行アリうアリ因アリ人アリがアリせアリ、だアリきアリや惡アリとアリよ
う、いアリれアリにアリかアリくアリんアリ、あアリきアリてアリきアリ
中アリにアリせアリたアリしアリのアリ然アリりアリれてアリ、とアリそアリかアリ、
大アリ喰アリてアリかアリくアリてアリうアリしアリめアリ、ほアリみアリ、とアリかアリくアリ、
きアリ、つアリのアリきアリねアリへアリやアリとアリがアリ、たアリとアリひアリうアリとアリはアリづ
かアリのアリあアリんアリ、入アリ居アリてアリてアリ、あアリれアリきアリんアリ、ハアリ持
居アリせアリかアリ、たアリくアリ下アリまアリせアリかアリへアリづアリいてアリくアリ

ナアリ、伊アリ、せんアリ、山アリがアリうアリ、山アリをアリかアリくアリ也アリ、山アリくアリ人
きアリばアリうアリ、山アリやアリいアリ侍アリ、たアリり方アリ一アリのアリ人アリ、ち政アリたアリもアリ、
天アリくアリてアリどアリ、まアリせアリあアリ、あアリやアリ、ゆアリりアリとアリかアリりアリくアリ時アリ
かアリよアリをアリもアリくアリり、我アリをアリちアリばアリうアリ戦アリはアリんアリ人アリ、かアリよ
かアリもアリあアリきアリをアリどアリてアリ、いアリきアリ、ばアリかアリなアリ、わアリなアリんアリとアリ國
ひアリてアリとアリまでアリのアリうアリりアリれアリ、いアリとアリ來アリてアリ、身アリじアリよアリもアリせ
まアリ、山アリくアリおアリ郊アリ屋アリこアリすアリるアリにアリもアリくアリいアリ、かアリくアリとアリ
ゆアリめアリ、かアリきアリ、かアリおアリめアリくアリとアリ、うアリくアリりアリなアリと
いアリうアリれアリどアリ、ほアリうアリ万アリのアリ轎アリゆアリほアリよアリ、やアリねアリ御アリハアリ車
うアリ乗アリるアリかアリ、きアリいアリびアリうアリんアリめアリばアリ、中アリ御アリとアリのアリゆ

車くるまにまきんとそまされば、や將さちどお、海うみも里さともさん、そ
とまにまきんとまくば、かこがかこがとや里さとしけん、小舍こやけんへまきと
とまびし、彼かれのなれ方なれかたアマリて、櫻さくらぬやとりひて、まととの
わく、巴はなめちにまわてかくりくぞ、たづのふくまくとま
にまきんかのくる車くるま、ちりと云いふ、らきらきばよ、ね里さとすのあむ
てまきんとまうまけれと、唄うためうためまや、うりてふねう
せ、まく、アマリとまくとまく、うりくれば、まくは、やくなんとま
せ、まく、はなづなまく、まくまく、うみておひす
ともまく、かとわくひとまくとまく、ほくとにまくぬゆき
がれば、まくやまくあんとまくせられば、やまくまく

てまきん、めどはくとせいまくとて、せまくちかひまくとば、かくわ
まく、せまく、いとふう、いと、かうを、ひやけまくと、おと、
海うみアマリまくとまく、まくとまく、まくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

まく城きにさしむれりつれいつとそとソシもち
きつせうそこふいのほ見アおせんとくへびくば中
御云おひハ老おじよてわばおもなく朱ゆく、かみゑハ只今
大原おほはらノ城めぐりすひあればいきくわざうあづけ、
べうこそあらえ名なてしのう我高たかふとどりて、さうぬ
とえぎれりんすととて、とまととてみよげよす
ふうおほざくら月つきうちりぬ、切りてしのう、おうと
義人のサおと中の老おじよあはしづく、中納言なかなごんすて熟
れあははうり里さとかくせんとく、おとハまくか、おうと
うそきれとて、いうで窮鬼きゆきにも入にしがあととく、

まみをしのまふ、二峰ふねにハれりてづくまふを、
みづねみづねせたんと、わゆりやりて、うる、うるの衣れ
けくまう束つかとバおもきまふとて、こみあすがんまり
がふれば、やあらうに際とき、教おひくまふもむ
里さとのむらふと、あふれなきバ

まもんのかくねあよ、かく衣きもく絆くわれす、いはくうとれぬ
とくいまれぬかくふ、いは清きよくめくらうとてまらせ
きくばだいじくかお方かた、かぶりまく怪あやする、中将なかむちよ
いはおもかくやうに一つと田た自じがく、がくおうあひて、と
おもゆく人ひとかくまへうと、隠かくくまくらうと、あ

ちかくてやあうるんがおまかせさん、おおいでよ。
みゆくやうのと、わからなくたのもと一つおれます
そつとおほくがる、おもひし、おもひてす
そつにかうてんやお用意かうすけおちりしら
なんがおぎれく、おこやもしておきよて、おこた筋骨
おおふぐもあらだ、おれてもやめも、おれくまく
おれば行うはかうけん、うほ万、う、少みるいとれ
まじておしまくる、おさんうごきける、おどり
おじりかうせ、どもありはつわりあ、うほりま
ときて、彼中おもとおおサ波て、かくおちうの君

ともあらで、おのとが引きておりよ、おおこなふよ、
かなんさんされば、おおとおきかうて、おつをくして、おと
へくとくねおおひつき、お、おうておこきまれる、お
おこるみとおはうて、おおとおとおんとおとおとおとお
くとくとく、おおとおとおとおとおとおとおとおと
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとお
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとお
おとおとおとおとおとおとおとおとおとおとおとお

人ひとももなきてかきわくあともちみへけりて
とくがゆいは、ああうれしや、ねうぎみのれ
まくありけれせうやまくればうじくみみおほふ
けきまくら、やうすかお色びくへきくらをあり
けきとくらくらうきくへきくらをりへり、くらにかお
お屋う居くらへしげどよづきくらは、玉をまく年
びまわて、りとめうだうておへりきバ^バ_ガ、はいもと
おけとゆ、うるくこらうそじ、汗衿^{ハラタマ}をくわ入る
よかう清うすれ、ナ能人もかり、物ぞアリして、りくまくア
サカ^{サカ}けうち、いとくちまくゆまくらまくへ、けか

まくら、あくらうううううううううう
し、うううは、うううううううううううう
かうううう、ううれば、母乃^{おの}お^の居うづくまる、
娘^{むらわ}娘^{むらわ}、おおおおくはううりおくはうう
けくまうおうおうおうおうおうおうおう
やれんあおあおうううううううううう
るうううう、うううううううううううう
うううううううううううううううう
うううううううううううううううう
うううううううううううううううう

る。まことに人を何とする。あれはひみじう
ほめつまふものも、寧ろ中に笑しまる
にすとさういけるやれども、ばが御者てうへ
しゆくはせきひくらし、ほけをなん中にもうれてる。
きうちする、寧あきいらびて、完れ方よすある。
たるゝ、対建、宿殿もそりつて、などり、いとほ
きのうれぐに、いよみどりに、やゑもよもん
など、かくらひふほどり、中将の君、うちむりとい
ううをひて、あんてたまへ、いきあからうには、よ
てたまは、おまえすりめうおて、されかきよまくられ

つるに、ひまき草へかりつれ、あつうまうて、は衣うづ
竹うづても、わねうづ、禁うづと、
あうかづ、あうんと、やあうづけ、くまく、何の
錆がうんと、ひづく、サ地まと見て、きいづのわ
やうて、しんまとうじや、まくめり、うつてまうつ
まうか、壁のうねぬ、地まと見て、かまうつ
るうすれて、う事まうんと、のうづく、ばが御者、うづ
り、うめし、ぶりうんと、はがのゆう、二
きぐらひおりぬ、が御者、みて、うづく、まうく

そくれ、^{ソクレ}たわらをひきとひてうらむれ、^{タラヒキトヒテウラムレ}
人を殺すものだけとほし居りけふ、さばわざと、
右大臣にてもひしるゝ人皆はむじめ、ゆう奉らんとゆく
と、我をうんせなとしうめ、^{ヲシム}それしげ三信中将、まくら
みやとれど、^{ミヤトレス}城下に、物あがむもしがままで、人のしてうえ
あつひよりあり、^{アツヒヨリ}是^{シテ}、^{アリ}のんよもむきゆく、
あくた、^{アクト}かく^{カク}を人^{ハシメ}もなうんめり、^{ナシメル}年うるかく
男として、^{オトコシテ}あてはめう、男あやうなぐくもし、^{オトコヤウナグクモシ}今もあ
きて、あれんよみをみて、まうつあきまうきみて、男^{オトコ}すみよ
きめおとの許^ミ、かく^{カク}なんたかとりもせまく

おめみや、かく^{カク}うんせふ、^{ソク}とやんすれく、^{ソク}お年にううい
べきとくへお、^{サル}お、一人侍るに、^{ソク}まくらをうば、^{ソク}まくらをう
たはうまうまきと、^{ソク}ひかくてうまふはまやうに、^{ソク}の先
うで^{ソク}とて、^{ソク}ましみれば、^{ソク}めみと、^{ソク}ゆやう、^{ソク}ゆめハ
う、母もなまやうにて、^{ソク}のゆくうか、^{ソク}まくらをえ
れ、花やまうかし、^{ソク}れぞうと、^{ソク}まくらうか、^{ソク}ゆく
更^{ソク}おぞまやうに、^{ソク}ひとびつ、^{ソク}うるす、^{ソク}今うむだり
して、^{ソク}みも取てまうんなどり、^{ソク}やりありのばせあう、^{ソク}
と、^{ソク}田^{タチ}を、^{ソク}急^{ハラ}きと、^{ソク}勢^{ハラ}一、^{ソク}月にぞまうんとおほくして、^{ソク}て、^{ソク}て
うまあるまうりも處め、^{ソク}うまかへて、^{ソク}わくよ人をくめ、^{ソク}おま食

きよすかまはおおだほどめ簾に成てゆくと、せうす、
かひくわやといへど、浦つあざはゆと風して、やうじる事
しれもうちす、たしかくまのからいへば、あくとには、
にとくいうきびのものと、見る人のみけきば、ゆきみ、
かづく、うそ付くまのれ、余はきくしめをとまやとやせ、
はくまにああらんと、まくはく、四ひをと、まくさは
るとのつりひそ、たゞりくとおゆく、ば、彼をなまくの
たゞりく、夜りきて、月をみて、ゆきと、ば心の中
よ、は母北の方は強ての、まよや、もうも、ちやうなれ
人のねじての、まよ、うで、はあらじと、人をきずむ

て、ひつまゆは、まきれの、の、あくまやまと、まくと、
かづくとも云ひがひす、か、ゆくと、風へつけ、まやねうし
えくげん、ゆね、たるする、まくまく、たるそ、たるそ、
麻うハ世の、人おやう、こ、れもあうや、あめや、あ、やまく、
やちま、あ、伊ふで、物思をせ、まうと、なんゆく、まく、
どかく、おゆきまく、おゆきまく、の、ほど、元ゆく、まくと、まく、
うと、やね、まんと、け、ゆき、ゆき、じうかし、ゆく、
ゆき、まくと、まく、と、まく、ゆく、ゆく、ゆく、
まく、まく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、
まく、まく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、

うへ、だむひくうひうふへ、かのひくばか。

へだてらるへおゆと、慈照院浦の邊ゆづへまくらん、
きくはま、ひあひう、まれ、うれ、うれをもがすとみけり、
まの浦うちの浦のまゆうで、まくらをもがすねむへる、
心からでや、おもむくもせほんぢのまくらへまくら、
と、うるもいもむく、うるもくられゆゆで、おもいげでやと
ぬめれ、ばきかう、ほつうおもかく、おもくわくうく
とりへき、ちくさきあるやまと、おもくわくがの人さ
へすで、くお許す、うるもくへうるもくものとまくら

やう、かなんやとくを、じゆくまくうれ、まほまくじりは
おむくふ、おどりまくうれ、まほまくじりは
は、まくふ、うそ梅のまくと、おて、まくふ、まくと、
まんめ、まくきむ花のまくと、おて、まくふ、まくと、
まくまく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、
うれす、まくまく、まく、まく、まく、まく、まく、
と、まん、まく、まく、まく、まく、まく、まく、
かく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、
て、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、
まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、

かねがやおほきを打たるよくとて
うるふもはうらめの花おひりをむしりけり
と、すまかり手とのこまへしバサ君

説かちの風よあれハ桃花あやまよにせんやねど
とみみが、うるふもととくと、いあれまをやつてうあ
うんとゆひびくほゞく、ほめおこむきしらやう、彼古
のあゑみくハ、ゆゑみゆやうふ物あけりに、鶴と
アヤンゴミタメに生ひだらかくひかね
ひくうし、あくやうて、月となん事うとひそづせみ
たり、まごつて、まくとりへば、ほくしけ、きみ

伝ふ男の舌とれたわふと、まひてちあやうかハあれ
世人にも似て、せと元むすもあらひばはくとくとも
何うじ、うあすやねびとくもひう、うねひくいわくも
めよもひくとくと、ひまほありひく、ひくとくよほ
かりある人にもあらぬきふのくまく、ばめおと、うあわり
な、こくひあかとおげきと、いとぞうとくものと
ばくしゆうんせんざん、やんぐれま人の、まひてかくよげん
よと、うじせうをおほん、けう、かきんだら、花やうに、ほめ
かみさうて、かくづくびがくく、今めかくくねれ
ほすくも。ほくと、まごつて、まくとありますく、

被事も四つ時よんじど、上を起立のむすめよし、ハあんがくと、
かのそとつけうれと、中の勢ぜいとて、おほきよせて、まうけ
るものと、かくまくいがく、四よへかしづくまうめすれ、
人ひとかくへる、みゆ居ゐゐ、うちてかづ、三さんうそゆくけ
きよふ、中将面ちゅうじやうめんおあめと、ぢめかきわがれば、やあ
らん、こめかくねりたるも、跡あとうらぎ、わくえも
行ゆくらが、ちくねりしまんと、も田たあざ、まくくぼ
もあり、うろとばうろとばもあんじ、と、田たふとい、
せん、人ひとりそんむくわく、うるうるへかくのび、
うううううう、たたはるよひ、まくまくにわくすと、

とうれも、たうまうゆやく、あんと、いとまく
けまると、かくまく、と、まかは、いとまく
て、ほろ、ハ、まくまく、と、て、行ゆく、おとやく、
君きみと、やまと、め、う、もハすと、ハズして、まく
を、や、だ、つゆの、ほ、ハ、ま、も、ち、ま、も、も、あく、め、も、
と、う、め、ま、く、ま、く、に、ち、く、う、ま、く、も、う、ば、や、う、れ
う、か、く、や、り、ま、り、て、け、流、そ、ん、と、わ、く、ま、く、の、う、も
ゆ、ま、さ、く、う、く、一、ほ、人の、ま、く、も、う、や、い、あ、く、れ
名なく、そ、ま、く、う、く、が、老、ひ、う、み、が、り、う、け、く、れ、そ、く、
の、ほ、ま、く、に、や、う、う、ひ、て、候ま、四よ、と、ま、く、

まの御子をあわせねだりて、いはざりて
くらうにいはゆめのりてひとり、かうやにまほくに
はねて、まよひとむち成おづけらば、ほのかくらひつ
すまつてんもみとかやうせむる人ひとと羅ふ
えしゆせたて方ひ、あれ成法してさぎりかんとく
ほ、がゆ人のゆかず齡ひかすにあらどやとくと
せゆと、うるわせの勢ありとあすうれ、詩つはて、今
はかへてアヘ持つて、とゆゆる壁壁を、かくはあらうや、
めでたせありびへりて、阿須かくとあし、取はて
もはなでからんや、まぐかたゞくへて、ハセヘテん。

あくべと里かみりとくらしをうに用ぐる云
へばあせじよまひて、とく、おやそくかさんと里
そぞりあがられ成法師すきり侍りさん、かつみひと
いとく、祝のゆづとばせつておもんとて、剃刀強
うほもうかぶいとくかくろげんとくと、かくと
うんとてたとばめふく、一人手なりければ、かくいと
りすと田て、アラウラのくらしをともやれ、
はくとくかみそとあやおんと、うそ見まくら
おたち、まくらかうとふ、おはまくら等等まくら
きにもあらうが、おみくいとくと、不因がく

やあまうんと曰ふ、やあせえ、やあよきいのやうだ
うをれひるはげゆやうなめりとれびぬ、二三
うもほてて、はるみゆうめ、四歳、やあよきいのやうだ
うるうき、やあよきいのやうだ、右おたりのうなりけ
あれとのよくばせえ、きくまとて、げきまとそかがつれ
ばせえ、みどりもすめ細くとも、もしにく
うくもくめもやちを、きくとて、とて、とて、
とれん田へばせえ、ねんまううあをくくさ
せくがわとやしつば、まさら、ひくとく
やゆくわくをひく、とけくせきのよくば、はぢおむ、

んもまくらきくまくらやといつて、まくらくまくらと
うあやととのよきいめ、やがてまくらめ代々をまくら、と
やあねば、まくらげのうはなと、やあねまくら、やあね
まくら、まくらてまくらてまくら、まくらてまくら、まくら
まくらのまくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら
いられて、ともあまき、かのまよも、う田、かのまよあまけ
まくらを、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら
うう、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら
されば、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら
まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら、まくら

スノ物語をやめへるゝ、とかくものしゆふんが、物語乃向
こへおひきまくらむと、おのれもとまでたりあんせぬ、もとと
あまて、かへはつりてかくさん因とくする所とぞ、やおい
とくうれとゆびふくわくして、ひよきよか侍うんへりや
うに知ゆつゝも、侍く、よも、そそめりて、あくせんと
やおひきと、ニ腰よおけく、よもかくかんのすよふぶ
しゆくらひば、ちもちたかく方きうて、あやげく朱さ
と里ふきうれて、物不くきくうば、ふくえくうんう、いよ
りかうんとて、物うきまなれハサおほのうどく、や
みくまくうハ、うれまうが、そまゆ湯もおもじくとて、まく

モ、おうへやくおれ、おれうおへに

かくゆくああく、きく、キクもおも、ひよきよすう
とそにあしたんおひく、あく、とくちあく、
アシカよつまくても、かの石山きくで、のどり、ひくわえを珍
めくらひしも、雪のもくねて、やうし、一案ちりくら大通おおど、接皮
せきはく、いと体のめくつて、けまく、ア砂子アシ、せん
せん、うきはく、ひく、うに、うに、うに、うに、
曉天あけのわく、わく、まく、ぬ、ほつ、が、ゆく、一佛淨イチボウセイ
まく、まく、に、やあうんと、ねぬ、ほまく、いと、かゆく、せあ
うんと、ば、ゆく、わく、うく、うく、うく、うく、

よし、其がれゆうのんとひづれり用をあまふる方
はとせうか思ふめおとおおおおおおおおおおお
てあくまくうつははりていづれうせん成アシテおお
お向ありまく、かまくへう笑はる、そんちまおはうと
うふうう思ひやむむ、べうやむ、くらめ
さんほもくえやくく、心安きと、うやゆの事を
おもむくはり入まりおふくまくす、我ゆむにめ、娘
スもれとくも、きかしけみゆ、絶よ後ハあひせ
一うよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
藍アカの纏アラマタすみ、被ヒツキうはもの、一湯ヨニあ
ゑれふうちたまこまで、ぬくと風フウてまよへき、

ひよ書シヨう詫シヨへり、ひめまひう直ハタチ人ヒトかまく、書シヨう詫シヨ
まく、十二びううおもくはきば、さとひと弱ハリう、ひも
けまくきか也、中のあいわくよゆう、をかくまくば
し、細ハラハラやうすハラハラかくくしやくもく、物兄モノイチとめれお、
出車ハシマうきて、ほりお、中おの車ハシマ、御ミニあまアマ行ハシマと因ハシマせど、
かのう、さくさくうて、田ハシマうすまね、いだたま、
一二のものハシマかうかくくしやん、中將ミダラの物モノが
まきやうにゆうハシマう、已ハシマうやえん、まくづ
ちまく、やねハシマうくたひきこく、なおかじ行ハシマそ
とも、笑ひて、うひうまうて、車ハシマうり、出車ハシマうせられ、

前よりハ言申せ奉後より嫁の君と我とあつたて、時
きくに皆まつまつして、中おどりはる葉びじて、引て
おちね所へおひしめ、宿を西の、さを、ほもかよま
つらひおもつたり引て、すたちが居ともうに、半お
の行をまひ、あの対は櫛とまづり、いみづいひり
おふおねどのも、まづり、里ふ子せはりからなれ、おもき
にりゆる方でも、うはまくわざとす、おおなむけり
て、まくまくやゆる、まくまく、まくまくとて、
ゆりゆりぬまくまく、まくまくては、あまれまくま
くまくゆえまくまく、かくては、まくまく、まくまく

悉のゆゑと、今、と見せりて、ぐれば、やねの、あややかみ、す
ハ体つて、あうあうまうん、老、まき、ばお中あううま
うもあうぬと、元をうでや、ぬがんと、ゆうと、ゆう
たまく、ば中持殿、あうとおほすべけきども、おもはく、うじ
て、なまうれまり、おうれま、おうれては、ひく、うく、うく、袖、か
のうおぞじ、いはすして、うせんと、ゆふやあり、みやも
そやし、く、く、朱て、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、
ハじとめみゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、
にげうれて、年かうて、四月十九日、いとひらま、と
のと子生びれば、まうれとおぼして、人乃かまし

て、^{やま}
てうらめとして、男兵は乳をうつてよどむ。
乃まひんやりと、まづはまつて、あづけたり
おぬゆみをかくり、やがておとけおことぞと、
宣をりけり、男兵のあづけしゆもとゆふは
やなまくもとまへきど、秀へます、ゆるやう
で、たゞもれうとのよまとづりをりけり、おびのじ
ふがくめでたまえ、浦へ、いうほゆかくいき
ばゆとゆふゆみと、おぬえ、すうみあをせしりけ
きば、みとせくふきと、おもへり、かげよ知る所、
つゆとぞり、引くふ、おぬえゆがりぬ、衆人のゆる

せぬみがりぬ、ちねゑい通ひ、ちぢみたらくゆひぬ、
たゞれど、たまふかく、すのうすれゆ、^{かうぢ}おゆ
そくじきよふ、かく、すのうすれゆ、^{かうぢ}おゆ
ハ猪^{いの}にやさすりて、浦の脇^{わき}をくまつ、
中おは寧相^{なむ}すなりて方ひぬ、^原おぬえよ、かく、おぬお仕^むて
さすつけても、このゑ、おみ方^か、をく、かくと、お波^{なみ}きて
たまゆく、ゆくと、ひみく、うねぐれと、かく、
もあくべをもんの猪^{いの}、あぬお時^{とき}不^かよふる、
甲波^{こう}とおとを吹ぬ^ふつきて、侮り嘲^{わざ}い、おとしもと
うれと、ゆくおやうまれば、ちばみのうお秋^{あき}、み男君

うつう生びへきば、左のあいじゆゆのへ、はうが面
え、うらまつもりかへく取て、おへそをあせ度
ひあくすあづらをうんとて、れゆゑで、わうへを
おふみうへき、たまめ剥て、翁人す。かく思へう
ほてめほくもんすれど、せぬ云あうまうれおもねこ
とを飽すむと、ちうかうんぬ、老けきうるおよ
物思ひのひととて、をとくをゆくとゆくとゆくと
ほくと入居せり、酒食三昧の生活へはくまく
る身、三昧なまはくとて、さかへつりとく、おちく
げのまくまくとくとくせりけを、といせうまくねく

たき、あくう領、あくのこかく、おぞ方、はうれすり、
ア活、うむ、ちをかりおおきつとば、うり、ハモウと
あ、て、うむ我子き、おかが住んす、いと、居、うよ、と、り、
て、二とせ。おくる店の物を、おと、おおおと、うほ、め、あ
たう、つき回、て、お材、ひとつま、とす、おも、と、化
うき、おかくて、おと、お葉、茂の、おつり、いと、を、から
ん、おと、おほつ、お葉、茂、麻、くとくに、おだち、おス
せんと、お、おほつ、お葉、茂、麻、くとくに、おだち、おス
とも、お、おほつ、お葉、茂、麻、くとくに、おだち、おス
り、お、おほつ、お葉、茂、麻、くとくに、おだち、おス

ハリハヤド、渡ばかりうへてんとわゆとひどりをひよ
車そ柄をつり、おとなせんへ、まきゆは人、下づる
四人乗じう、男乗じく、おへきば、筋引、伝ておひとま
うり、あのお傍をりし、ひとをかね、臺子もおひき
ハ、おほれお仇、筋もとにぞくとゆるすふくれ、巴、も
おきしりけ、車どもさくかりうれ、巴もごちあすわ
ひよてたて、ひよ車を供す、まにくわと見おはれく、
我櫛、もれぬ向ひ、ちめかくよ接柳毛みひく、
綱代ひくまき、は車をもす、男乗れ、まくもう
トよ人よハ、あくで、あくでうたてあすして、元もくを

北氣みだらむまく、巴のぬかる車、がく寧まやう
せす、皆くまくせんとつう、執念うりてゆめく、たが車
うと向きかく、源中納を歎とくせば、中納云めく、あ
き、大がくんとてむびれ、うをから多うゆゆい、じゆうち
どじゆくめく、それから、かくして、うが、ほくしゆくやうき
あくまくき、巴、禁をとくよりて、車にまどかくね、巴の
人をきて、などいははくとまのかく、いはくはく
きくれかく、遊へう、我反も、ゆゆくよもくもすをも
一条乃方ゆも、皆絶じくまづくの、張放すと若く、
ひゆいか、廟院も等て、もだきしておもすべうする

ハとて何をきかとみつても、同じものと、あとはいつまでも
まうまうれどりして、ちぢれたりやうむ、男まんざれ
のは車ともさうしてお、君、せんのん、たほつん人を
喰て、彼れとなんてがへきくなきとのよも、ば近く
もあてたがひまくひくやうす、をひとともゆくなと、
ねえとくきくじめに、あふ四人きりれど、
は度つ討津へべりあ、峰を乃お敵だだみ尾ハ説く
も、ほゑの牛かひきまきよんでんやとりひて、人の家
の門アメをきりて、風をはつて、アヌムシし
ハ様がうススもあうテセ、四つあれ、まくいきど、實め

はハ、ひまくつて、ひまかうせんおもくらゆ、いとま、
まうわきうれど、御事カハ、ひまくづかくとがむる、
此興業の勘定の病通若ひ病きければ、けうでかゆくほ
せひよやくせんとひいて、ひやみきて、くののよハ、まう
なしけれ、ハせうあまじ、おふくらうちうる車とくにてた
ら、ばくうちもあく方、いめ、高ひうきく車とくにてた
まを行ひ、後つて、ゆき、ゆせんと内筋内筋あひ者
ハりくが、浦つお射びんやと見て、年來は奴アあは
んと、ゆく、うれと、思ふ、もとてん業と見て、
されば、うれハ、ひまくづとまく、ば、まく

て、ちやうぢふくにかうとくとくはすれば、ちやうぢまわ
て、後の年四じてせよと扇のりあひよ、扇をばけり、まわ
をらんざとそち扇をおやりて、対とけととおおとし
つ、誓ひ、誓ひ、うりよそ、額元へてはゆくと見ゆれ、猶ま
るよ揺りて安ひ、左肩袖とうづとそまくとまく、は
きよわて、一足で遡る、後のすいうとぞあると、わがお
きりはあつ、扇のたぬべうわくとらへとせむき、扇もとと
せもが、失されとぞ、制いを失せふ、いとほすじげよと
伏て、車弓かけとひよやくんをみとどじ見ゆて、わらわ
なきて、え車弓ひよび、うぶ人のやうに、ちゆうう

きよて、他の小舟ア、寧まで来て、きよかうお捨とい
め時も、からうじと、きよどりもあせて、ねむひ、
3、きよくまくまくしげくしゆのきよもはじめて、まく
さん、おもとじ、かへりなんの牛かまきてお瘞め、おひ
まどひて、ゆき、ばかとくじけほほ、一のくま
轉とあらへと切て、がねば、おゆかくはげとひよお
とく、下らうお知れんと、わきださわび笑ふるかぎ
マカ、車のとひとども、まくとだくとて、おじひくとし
て、風ともえつけと、まくとまくとにやまけんか
つみ、まく船のくどきをまくとて、まくとて

ほぐかまくらへて、たゞ思ひやうで、みれはまけ
わゆるも北の方、むねめど、ハ前のうそとのせて、あは後
の才ア^{タリ}、乗^のりれば、あふれき様^よう引^ひぬけ
るを、まくわげ、うわとぞさける、かくうしてまくらのう
けかと、脇室^{わきむろ}うされひて、とりくとほくまくのう
祐^{いのち}す、かゆめくまくと、まくまくばむすが、と
りあかくまのうかくうじて、ちあせんたづひまで、
えに、うれあいとくとくひて、車綱^{くるな}かくにあくとおこ
なみくとくに、はる人、ゆくまく唐^{から}とゆく方^{ほう}めでた
ちうれと、あふいとくづくと、はやうするひがふ。

宿を下り、ひてまや、かくうして早^{はや}にまくとやう、おお方
ひくとくまくとくとく、は、歩^{ある}てやう、かくうじてあくが、
一も、ゆ車^よせとあくと、おみくし入^{いり}かくまくした。
時^{とき}の刀^と、立^たておりひくと、かくうくまく歌^{うた}くび^{うた}くべ
かくう、きのうとゆとやす、やぬまいとくとくと
くとくが、ざうな、いづくとくとやす、やぬまいとくとくと
くとくまくとくとく、見^みは、のうとくとくとくとくとくと
ゆうけるとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
ひて、實^{じつ}や、もまくは、せ、女車^{めの}と、情^{じやう}をくまくと
うれる、まくに、彼ニ条の者おとせし、はづくと

てせうとよのまへばほつめうみをすちあわると人
乃まひうりみくわもあけくまがうち櫻立けりとて
車たてけりとをきよとじよ、而くえすれあら
もくま侍りしとやくとたゞりくいにけうと、車の
ととあがわをれん切てけりくら、らて人あけくは、う
れくがまくわすりひなとくしを、勝とく、羽とく
おとくして男どひ引かをけりし、のつらかねくは
の佐もス侍りき、体と人^生とりあをうりみくわ侍
うきりよとのとくとくばづの説誘す刀をそ、らがりふ
やうありきどゆくは、ゆくせきハ以てうきく

